

12 食育に関する具体的な取組について

(1) 視点1について

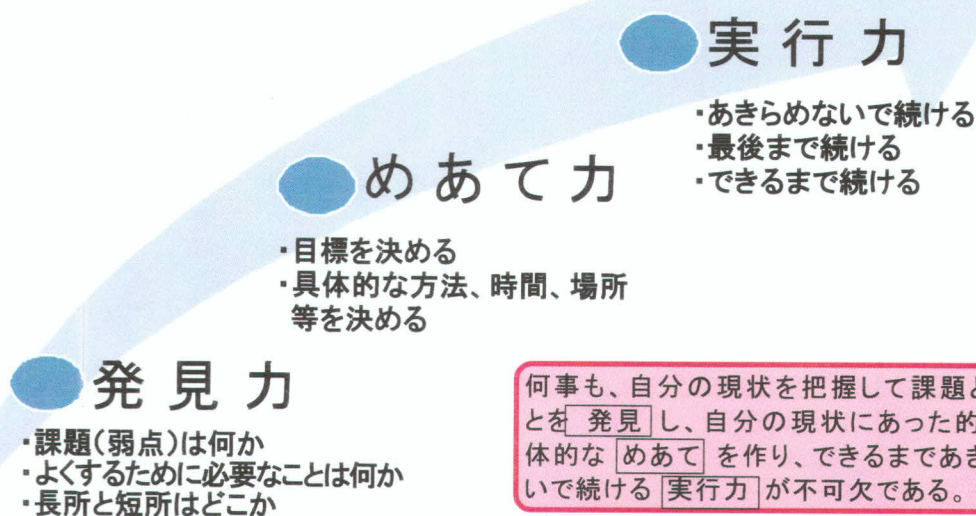
食への興味・関心を高め、正しい知識と望ましい食習慣を定着させる学習指導の工夫

①「行動化」を支える「自己管理能力」の提示

本校の研究テーマについては、学校・家庭・地域が連携・協力し合いながら、子供たちを取り巻く食生活を見直し、望ましい食生活への理解を深めるとともに、子供たち一人一人に自己管理能力を身に付けさせることで、健やかな心と体作りに必要な実践力を高めることであると考えている。健やかな心と身体作りに何が必要であるか理解できても、学校や家庭で、または、自分自身だけで、自ら実践できないと改善にはつながらない。

本校の研究では、子供たちの実践力につながる大きな力は自己管理能力であると考える。自己管理能力は、食育だけではなく、学習やスポーツ、将来設計にまで深く関わってくる。このことから、本校では、自己管理能力を次のように捉え、子供たちにも『何にでも使える・つながる・必要な力』であることを伝えて各教室に掲示した。

自己管理能力



この『自己管理能力』を身に付けさせることが、食育を実践する力、学習やスポーツで夢を叶える力につながることを信じて様々な実践に取り組んでいる。

②学習過程の工夫「食育授業のさしすせそ」

自己管理能力を高めることで食育の実践力を身に付けることをねらいとした授業の流れを次のように考え、全職員が共通理解・共通実践を行った。

食育授業の「さ・し・す・せ・そ」

食育【さ】【さがす】…自分を知り、自分の課題に気づかせながら、食への興味・関心を高める手立ての工夫

食育【し】【調べる・知る】…課題を解決するための活動の工夫

食育【す】【ステップアップ】…ステップアップのための日常指導、及び栄養教諭等の活用の工夫

食育【せ】【そ】【生活にせまる・育てる】…学びを生かし、「行動化」につなげる手立ての工夫

③栄養教諭の参画について

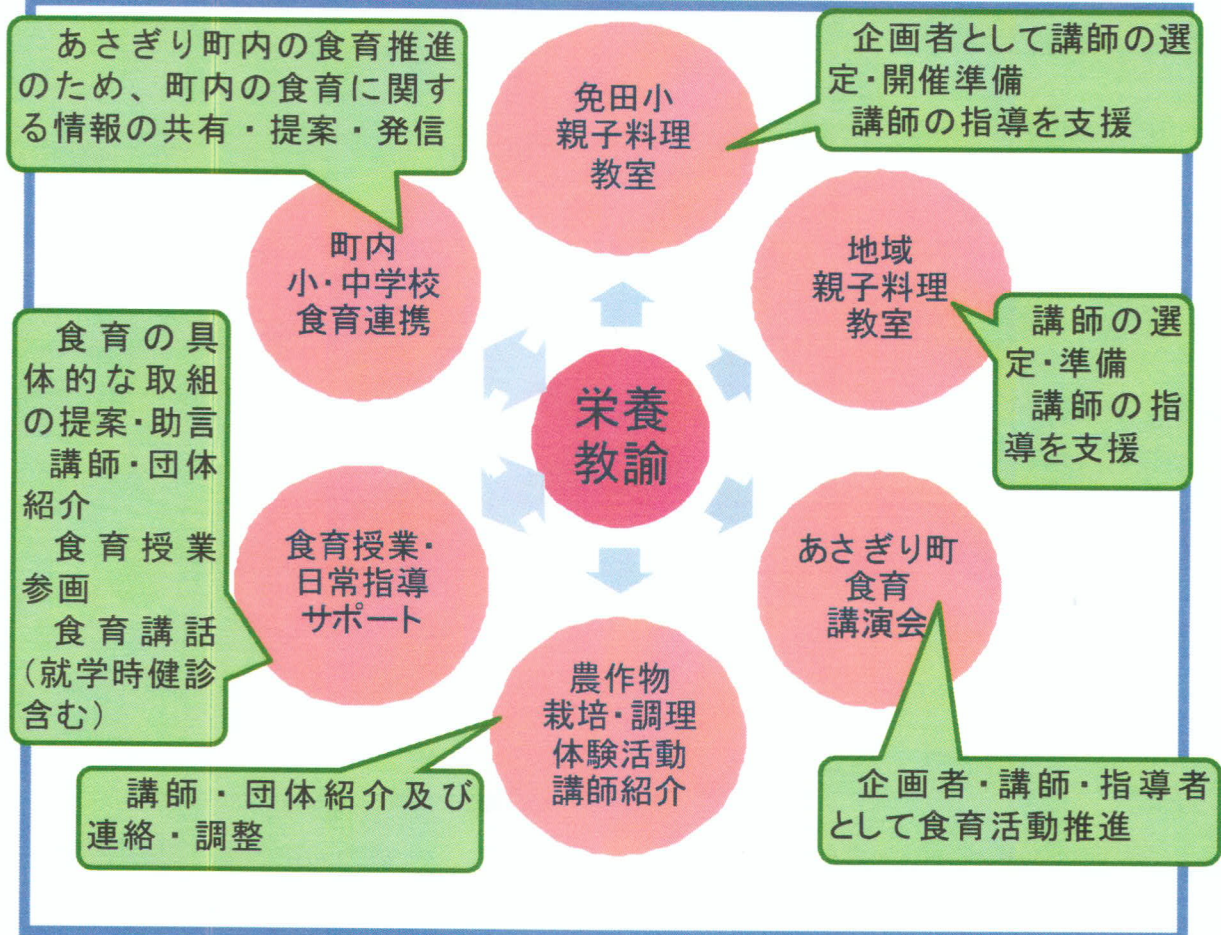
平成17年4月に、学校教育における食育推進の要となる栄養教諭の配置が始まり、本県でも平成19年度より栄養教諭の配置が開始された。

学校における食育では、学校全体で組織的に、地域・家庭と連携を図りながら取り組むことが必要である。

本校においても、栄養教諭は、学校給食を生きた教材として活用し、学校内外における食育の取組について、情報・資料の提供や関係団体等との調整を行い、コーディネーターとして関わっている。

実際に、本校の栄養教諭は、本事業スタート直後から戸惑いながら準備を進める各学年の担任の相談にいつも気軽に応じている。特に4月は、食育推進計画や本校版食育ステップ表の作成、各種体験活動や一年を見越した授業の計画、食育タイムの設定に加え、研究関係の各専門部の取組もスタートするため、食育に係る諸計画作成や専門部の活動において様々な提案を行った。転任してきた職員は、地域の人材・教材に不慣れであることが多い。また、新たに担任する学年の体験活動も熟知していない。そのような時、体験活動の内容に応じて最適な講師や体験活動を受け入れる団体を紹介したり、体験活動の概要説明を行ったりする等、極細やかなサポートは大きな推進力となった。食育に関する各研修会に参加し、専門的な知識も豊富である栄養教諭が専門性を生かし、適切な提案を行うことで、円滑に取組を進めることができた。

食育コーディネーターとしての栄養教諭の活用



④各学年における研究授業の取組

【第1学年 学級活動 「きゅうしょくのたべかたをかんがえよう」】

第1学年1組 学級活動学習指導案

平成27年7月14日 第5校時

指導者 教諭 藤田 沙織

○研究テーマ	食から見つめ直す健やかな心と体 ～学校・家庭・地域との連携を通じた自己管理能力の育成～
○めざす子どもの姿 (低学年)	食品の種類や栄養に関心を持ち、感謝して食事ができる子ども

1 題材名 「きゅうしょくの たべかたを かんがえよう」(2)キ

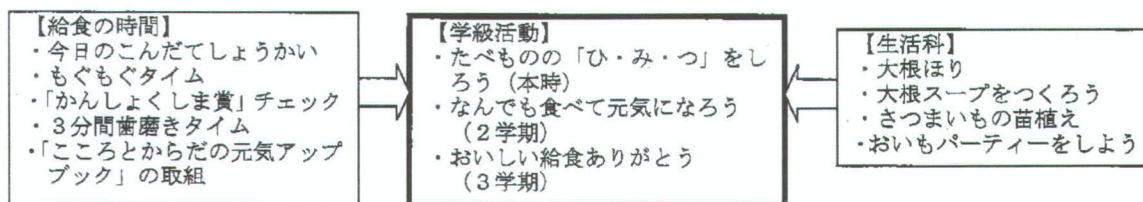
2 題材について

(1) 本題材は、学習指導要領に示されている学級活動の内容(2)「日常生活や学習への適応及び健康安全」のキ「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」を受けて設定したものである。

心身共に健康な体をつくるためには、好き嫌いをせずにバランスよく食べることが大切である。この時期の児童は、学校や家庭で「好き嫌いをしないこと」を言われる機会が多いが、なぜ好き嫌いをしてはいけないのか、栄養が偏ると体にどのような影響がでるのかについては、十分に理解できているとは言い難い。

よって今回は、給食の食べ方を考えさせることを通して、「すききらいをせずバランスよくたべると、からだはもっとげんきでつよくなる」ことを理解させるために、本題材を設定した。食育の学習の導入期として、「けんこうくん」という栄養列車を登場させる。この「けんこうくん」が「げんきやま」に登るために、どんな食べ方をしたらいいか考えることが、児童が給食を食べる際の課題を克服することにつながっていく。よって今回の学習を通して、児童が普段の給食をできるだけ減らさず、何でも食べてみようとする意欲を高めることにつながってほしいと考える。

(2) 本題材の食育の視点から見た関連教科及び指導内容



(3) 児童の実態 (男子18名、女子14名、計32名)

(アンケート：6月30日実施)

質問内容	解答の様子
①給食は好きですか	大好き24人、どちらかといえば好き7人、どちらかといえばきらい1人
②給食は全部食べますか	食べる12人、減らして食べる14人、ときどきのこす5人 いつも残す1人
③苦手な食べ物がありますか	ある22人、ない10人、
④苦手な食べ物は何ですか	サラダ4人、ピーマン3人、魚2人、梅干し2人
⑤食べ物のなかまわけ (正解人数)	20人以上：ピーマン(25)、きゅうり(23) 10～19人：あぶら、じゃがいも、ヨーグルト、えび、なっとう、もち 9人以下：トマト、みかん、

アンケートの結果から、本学級では給食を大好きな児童が多いことがわかる。実際、ほとんどの児童が毎日の給食を心待ちにしている。しかし、食べる量に着目すると、配膳したままの量で完食

する児童は半数ほどで、それ以外はほぼ毎日量を減らして給食を食べている。その理由として、「量が多い」と答えた児童が13名おり、「時間が少ない」は3名であった。よって、児童の意識において「給食は1年生児童にとって最適な量で作られている」という考えが低いと考えられる。さらに、「食べたことがない」「おいしそうでない」と見た目で判断し、すぐに減らそうとする児童も多い。このことから、決められた量を食えることがなぜいいのかということまで理解していないことがわかる。

また、本学級では、毎日給食前に「今日の献立」を確認している。そして、6月後半から食べ物の簡単な仲間わけにも取り組んでいる。そのため、野菜は緑の食べ物、油ものは黄色という基本的な知識は少しずつ身に付いてきている。しかし、まだ食品の色自体で仲間わけをする児童が多く、食品の栄養や働きについて理解しているとは言い難い。

よって、食べ物には3つの仲間があり、それぞれが健康で丈夫な体をつくるための大切な役割を担っていることを理解させたい。そして、この3つの仲間は、バランスよく食べることで、体をより強く元気にすることができることに気付かせたい。

(4) 指導にあたっての留意点

【食育の視点より】文部科学省「今後の学校における食育の在り方について」(H25.10月)

- ①食事の重要性…赤・黄・緑3つの働きの食品は、健康な体づくりにどれも欠かせないことを知る。
- ②心身の健康…食べ物の働きを知り、バランスよく食べようとする。
- ③感謝の心…作る側の思いや工夫を知り、感謝して食べる。

【本校の研究の視点より】

視点1…食への興味・関心を高め、正しい知識と望ましい食習慣を定着させる学習指導の工夫

○児童の身近な実態を取り上げて課題意識を高め、体験活動を通して食への関心を深めるとともに、好き嫌いをせずにバランスのよい食べ方をしようとする態度を育む。

視点2…健やかな心と体づくりにつながる自己管理能力を高める日常指導の工夫

○給食時の「かんしょくしま賞」のチェックを通して、時間内にマナーを守って完食しようという意識を、学級全体で高めることができるようにする。

○「げんきアップシート」を活用し、自分で決めた食べ方のめあてについて毎日チェックしていくことで、正しい食習慣の実践化につなげる。

視点3…食や運動の課題を見つめ、変容を実感する調査・分析・啓発の工夫

○食のアンケートや生活チェック表の結果をもとに児童の実態を把握し、実態を児童や保護者に伝えていく。

○学習前と後の児童の変容を分析し、児童や保護者に伝えることで、食育への関心を深め、学校と家庭の双方で正しい食習慣を身に付けようとする態度を養う。

視点4…学校・家庭・地域が連携し、望ましい食習慣と体づくりへの関心を高める食育活動の推進

○「生活チェック表」の確実な実施と、課題と改善点を家庭に還元していくことで、次の生活チェックに活かし、食生活を正していこうとする態度を育てて行けるようにする。

【人権が尊重される授業づくりの視点及びUD教育の視点】

- ・食習慣や食べる量には個人差があり、小食気味・偏食気味の児童のがんばりを学級全体で応援しようとする声掛けや雰囲気を大切にする。
- ・ペア活動や班活動を取り入れることで、個人の考えを持つのが難しい児童も、周囲の考えを参考に自分なりの意見を述べたり書いたりすることができるようにする。

【道徳教育との関連】〔価値項目2－(3)信頼・友情、男女の協力〕

- ・相手の考えや全体の多様な意見を認め、互いに励まし合い、仲良く活動しようとする態度を育てる。

3 題材の目標及び評価規準

○好き嫌いせずに食べてみようという意欲をもつことができる。 (関心・意欲・態度)

◎元気で丈夫な体にするために大切な食べ方を考え、実践しようとしている。

(思考・判断・実践)

○食べ物は赤・黄・緑のなかまに分けられることを知り、それぞれに大切な働きがあることを理解している。 (知識・理解)

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
食事と自分の体の成長との関係について関心をもち、好き嫌いせずに食べようとしている。	自分と友だちの食べ方の違いを比べることで、自身のよいところと苦手なところに気付くことができる。	食べ物は赤・黄・緑のなかまに分けられることと、それぞれにはたらきがちがうことを理解している。

4 題材の指導計画及び評価規準 (1時間扱い)

	主な学習活動	活動のねらい	関	思	知	評価規準及び方法	食育の視点
一 事前	1 給食アンケートを行う【朝の会】 2 給食の献立に含まれる食品の仲間わけをする。【給食時】 3 給食の食品の好き嫌いなものチェックをする。「元気アップシート」の活用【給食後】	・自分の食生活を振り返らせる。 ・今日の献立や食品のはたらきに関心を持たせる。 ・自分の食品の好き嫌いに関心を持たせる。	○			・自分が食べているものに関心を持って、考えたり活動したりしている。 ※観察・シート	・自分の普段の食べ方や、食品に興味・関心をもつ【食事の重要性】
二 本時	1 給食アンケートの結果をもとに、食品への関心を高める。 2 けんこうくんがげんきやまに登ることができる方法を考える。 3 これからの給食の食べ方のめあてを考え、発表する。	・給食を残している実態に気付かせる。 ・げんきやまに登るためには、①好き嫌いをしないこと、②バランスよく食べることが大切であることを知る。 ・学習活動をもとにして、自分なりの食べ方のめあてを考えることができる。	○		◎	・げんきやまにのぼるための方法について関心をもち、自分なりの食べ方のめあてを考えている。 ※発表、シート	・体を元気で丈夫にするために自分が気を付ける食べ方について考えている。【心身の健康】
三 事後	1 給食の時間に自分で決めためあてを振り返る。(元気アップシートの活用)	・自分で決めためあてを意識させ、食習慣に関する「進んで力」を高める。	○			・自分で決めためあてを達成するため、実践化に向けて意欲的に取り組むことができる。 ※観察	・好き嫌いをせず、バランスよく食べようとしている。

関…集団活動や生活への関心・意欲・態度、思…集団の一員としての思考・判断・実践、知…集団活動や生活についての知識・理解

5 本時の学習

(1) 目標

○「げんきやま」にのぼるための方法を考えることを通して、自分なりの食べ方のめあてを考えることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 言語活動	主な発問と・指示(T)、児童の反応(◇)	指導上の留意点及び評価	準備物
つかむ	5	1 クラスの給食についてのアンケートの結果を知る。 2 「けんこうくん」について知り、本時のめあてを確認する。	T1 給食についてのアンケートの結果を見てみましょう。 ◇減らす人が半分いるね ◇野菜が苦手な人が多い。 T1今日は、げんきやまにのぼりたい「けんこうくん」について考えましょう。 どうしたら げんきやまにのぼれるか かんがえよう	・アンケート結果を通して、野菜が苦手な児童が多いことと、給食を減らしている人が多いことに気付かせる。 ・「げんきやまに登る」という目的の提示を通じて、本時のめあてを意識できるようにする。	アンケート結果の資料
考える	20	3 赤黄緑の列車を変えて「げんきやま」にのぼってみる。 4 どうしたら、「げんきやま」にのぼることができるか考える。	T1・2 苦手なものは入れずにのぼってみましょう。 (→のぼれない) ◇食べ物が足りないからだ。 ◇一つの列車だけ食べ物が少ないからだ。 ◇好き嫌いしているからだ。 T1「げんきやま」にのぼるためにはどうしたらいいのでしょうか？ ◇好き嫌いをしない。 ◇給食を残さない ◇好きなものばかりたべない。 ◇赤黄緑の食べ物をバランスよく食べる	・「げんきやま」にのぼる実演を通して、のぼれない理由を考えることができるようにする。 →【能動型学習】 ・「げんきやま」にのぼることを自分の食事の実態と重ねることで、食べ方で気を付けることを考えさせる。 →【徹底指導】	「げんきやま」と栄養列車の提示
伝え合う	10	5 「げんきやま」にのぼるためのめあてを決め、発表する。(シート)	T1 自分で決めた食べ方のめあてを書いて、発表しましょう。 ◇きれいな食べ物も食べるようにします。 ◇給食を減らさずに食べます。 ◇～さんと似ていて、私もいろいろな食べ物を食べるようにします。	・友だちの食べ方の工夫を聞いたり比べたりすることで、自分の今後の食生活に活かしていこうとする意識を高めるようにする。 【評価】B：今後気を付けていきたい食べ方について考えることができています。[思考(発表、シート)] 手立て食べ物の2つのひみつから、自分が特に気を付けていきたいことを選ばせる。	ワークシート
振り返る	10	6 給食の食べ物の仲間わけをして、給食のよさを確認する。	T1 給食を食べると、「げんきやま」にのぼることはできるでしょうか？食べ物の仲間わけをして確かめてみましょう。 ◇赤黄緑の食べ物が全部入っている。 ◇同じ数ずつ入っている。 T2 給食を食べて、みんなも元気山に登れるくらい元気になれるよう、先生も毎日頑張っています。 T1 自分のめあてを守って、給食を美味しく楽しく食べていきましょう。	・給食の食品の仲間わけをすることで、給食のよさや工夫を全体で確認できるようにする。 ・給食の作り手の思いを知り、児童の「行動化」への意欲をさらに高める。	献立 食品カード(提示用) 食品カード(班ごと)

<授業の様子>

■「さ」段階 **さがす**

授業の導入に、給食についてのアンケート結果を示し、クラスの実態として、野菜が苦手な人と給食を減らしている人がともに多いことに気づかせた。

■「し」段階 **知る**

「げんきやま」に登りたい健康列車の「けんこうくん」を登場させた。赤・黄・緑の食べ物が不足していると、山に登ることができるかどうかを、実際に列車を動かしながら考えさせた。

■「す」段階 **ステップアップ**

健康列車がげんきやまに登ることができない理由を、赤・黄・緑の食品ごとに、田代栄養教諭に解説してもらった。

■「せ」段階 **生活にせまる**

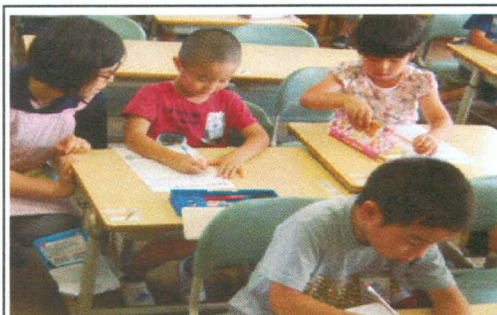
「げんき」をキーワードに、食べ方についてのめあてを考え、ワークシートに記入させた。

■「そ」段階 **育てる**

給食の献立に着目し、食品を赤・黄・緑に仲間分けをする活動に取り組んだ。給食は、栄養が考えられバランスよく作られていることに気づき、好き嫌いせず給食を食べていこうとする態度を育てるようにした。



【元気列車、元気山に登れるかな？】



【ワークシートに記入する様子】



【食品並べ替え活動の様子】

<成果 (○) 及び課題 (▲) >

- 給食についての自分たちの実態を知ること、今後改善していくべき課題を自覚させることができた。
- 教材「健康列車」は、視覚的に理解しやすい教具であるため、低学年の児童が食品の栄養について考えるには有効であった。
- ▲活動場面で、健康列車を動かすことに児童が夢中になり、「げんきやま」に登ることができない理由を考えさせる時間が不十分だった。
- ▲列車を動かす役を検討し、バランスよく食べることが大切であることを、全体でもっと深めさせるべきだった。
- ▲赤黄緑の食品が不足すると、なぜ「げんきやま」に登ることができないかについて、田代栄養教諭からの説明場面が不足していた。
- ▲授業における、T1、T2の役割をより明確にし、指導内容が抜け落ちないように努める必要がある。

げんきアップシート②

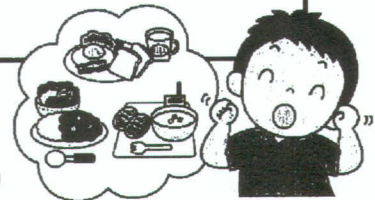
がつ にち

なまえ

あさ
ごはん

◎
○
△

①きゅうしよくで、あなたがこれからがんばる「めあて」をかきましょう



②じぶんできめた「めあて」のチェックをしましょう。

がつ にち	7 14	7 15	7 16	7 17
めあて チェック ◎○△				

【◎ばっちり まもれた、○あとすこし、△もっとがんばりたい】

【第2学年 生活科 「ぐんぐんのびろパート2」】

第2学年1組 生活科学習指導案

平成27年10月20日(火) 第5校時

場所：あさざり町立免田小学校2年1組教室

指導者：T1 教諭 石原 愛

T2 栄養教諭 田代 優子

○研究テーマ	食から見つめ直す健やかな心と体 ～学校・家庭・地域との連携を通じた自己管理能力の育成～
○めざす子どもの姿(低学年)	食品の種類や栄養に関心を持ち、感謝して食事ができる子ども

1 単元名「ぐんぐんのびろパート2～冬のやさいをそだてよう～」(啓林館 下)

2 単元について

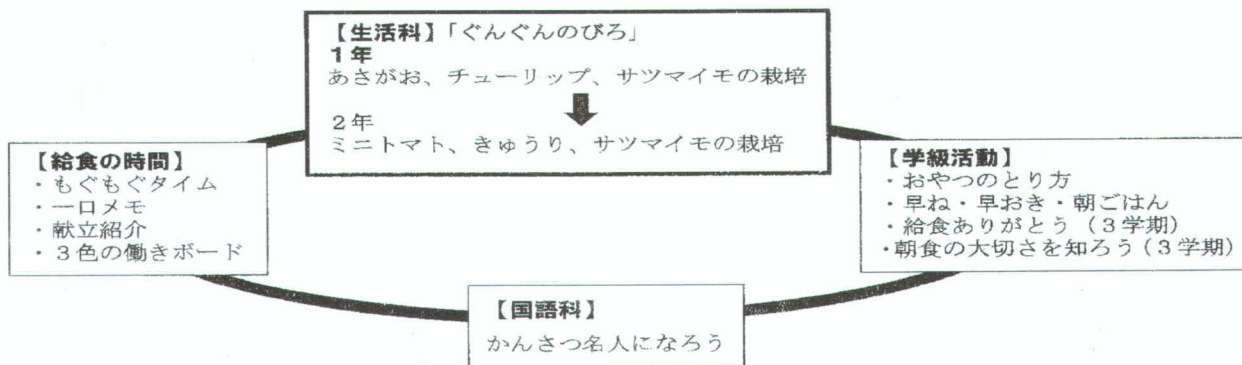
(1) 本単元は、学習指導要領に示されている生活科の内容(7)「動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。」を受けて設定したものである。

児童は、1年生の活動で花の栽培を通し、植物の成長の過程を観察記録し花の開花や種とりを経験して生命のつながりを実感してきた。また2年生の1学期には一人一鉢のミニトマトを責任をもって世話をし、観察したり収穫したりしてきた。収穫後、家庭や学級で食べ、給食の時間に栽培の感想を発表することができた。

これらの経験を生かして、本単元では冬野菜を種から育て、収穫、調理する活動に取り組む。その過程で、夏野菜と比べることにより冬野菜の特徴に気づかせたい。また、二期にわたって繰り返し栽培活動を行うことで世話の仕方を自分から考え判断し、最後まで育てあげることで自信が生まれ、自分の成長にも気づかせたい。

今回は農家の方に教えていただきながら3種類のかぶを種から育てる。そのことで、かぶにはいろいろな種類があることや、根の部分だけでなく葉にも豊富な栄養があること、部位によって調理の方法が違うこと、昔から伝統食として工夫して食べられていることなど、栄養教諭と共にかぶの特徴についても食育の観点から学習する。そして自分達のかぶを「こんなふうに食べてみたい」という期待と関心をもって栽培に向かわせたい。最後に自分達で調理して食べることで、自然の恩恵への感謝、野菜を作る農家の方への感謝につなげ、進んで野菜を食べる子どもを育てたい。

(2) 本単元の食育の視点から見た関連教科及び指導内容は、次の通りである。



(3) 児童の実態 (男子19名、女子14名、計33名)

(アンケート実施日 2015.9.8)

質問内容	回答の様子
①生活科の勉強は好きですか。	好き (31名) きらい (1名) どちらでもない (1名)
②どんな勉強が好きですか。(どれか一つ)	・やさいをそだてる (3名) ・たんけんをする (14名) ・生きものをかう (7名) ・自分たちで工作をする (6名) ・わからないことをしらべる (2名) ・みんなで話し合ってみる (1名)
③野菜は好きですか。	好き (26名) きらい (3名) どちらでもない (4名)
④好きな野菜はなんですか。(3つまで)	きゅうり (14) トマト (11) キャベツ (7) スイカ (6) じゃがいも (6) とうもろこし (6) にんじん、ピーマン (5)
⑤きらいな野菜はなんですか。(3つまで)	ゴーヤ (18) ピーマン (8) なすび (6) しいたけ (5) にんじん (4) トマト、キャベツ (3) 無い (4)
⑥夏に育つ野菜はどんなものがありますか。	トマト (18) きゅうり (14) スイカ (8) なすび、ピーマン (6) ゴーヤ (5) 知らない (6)
⑦冬に育つ野菜はどんなものがありますか。	知らない (15) だいこん (10) にんじん、はくさい (2) トマト、ピーマン、きゅうり、じゃがいも、さつまいも (1)

⑧これまでに家の人と、または自分で育てたことのある野菜があったら書きましょう。

(ミニ) トマト (12) えだまめ、きゅうり、にんじん、さつまいも、なすび、レタス、ゴーヤ (2)

活発で何にでも積極的な児童が多い学級である。食に関しては、給食の様子で大きな差が見られる。毎日必ずおかわりをする児童が数名いる反面、半分ほど減らす児童も数名いる。基本的に自分の体調等に合わせて食べる前に量を調整させている。

アンケートの結果からも分かるように野菜の好き嫌いはあるが、実際は好んで食べる児童が多い。本時で取り扱う夏と冬の野菜については、夏野菜は知っているが冬野菜は代表的な大根・白菜以外は知識がない。もしくは時期的にも関心が薄いためか名前が挙がっていない。本単元で取り扱うかぶについてはどの欄にも名前が挙がらず、児童にとってあまり身近に感じていないと思われる。

(4) 指導にあたっては、次のことに留意する。

【食育の視点より】文部科学省「今後の学校における食育の在り方について」(H25. 10月)

- ①食事の重要性…種まき、草取り、水やり等の世話をして野菜を育てることにより、食べ物に興味や関心をもち、食べ物にも生命があることが分かる。
- ②心身の健康…食事の栄養バランスをよくするために野菜の大切さを理解し、自分で育てたものを調理して食べることで好き嫌いせず野菜を食べようとする意欲をもつ。
- ③感謝の心…身近な食事が生産者をはじめ多くの人々の苦労や努力に支えられていることを知り、残さず食べたり無駄なく調理したりする。

【本校の研究の視点より】

視点1…食への興味・関心を高め、正しい知識と望ましい食習慣を定着させる学習指導の工夫

- 「野菜名人への道」(カード、掲示物)を作成し、学んだ知識を生かして主体的に野菜づくりに関わることができるようにする。
- 夏野菜と冬野菜の違いに気づきやすいように比べる際には写真を提示し、実物を用意して大きさや色、形を実感させる。

視点2…健やかな心と体づくりにつながる自己管理能力を高める日常指導の工夫

- 毎日の食事が健やかな心と体づくりに大きく影響しているという意識を高めさせるために、給食時の献立紹介や栄養素の「3色の働きボード」を活用する。
- 給食に使われる毎月の旬の食材を紹介し、季節による食材の違いに気づかせる。

視点3…食や運動の課題を見つめ、変容を実感する調査・分析・啓発の工夫

- 食生活調査の結果をもとに食や運動について自分の課題を明らかにし、よりよい生活習慣を築こうとする態度をもてるようにする。
- 学習前と後の児童の変容を分析し、学んだことを通信等で伝え家庭で生かしてもらいながら家庭と学校の双方で正しい食習慣を身につけようとする態度を養う。

視点4…学校・家庭・地域が連携し、望ましい食習慣と体づくりへの関心を高める食育活動の推進

- ゲストティーチャーとして栄養教諭や農家の方を積極的に活用し、野菜づくりや食に関する意欲を高める。
- 学習後の感想や給食の頑張りの様子を家庭に知らせ、野菜の栽培や調理の家庭実践を促す。

【人権が尊重される授業づくりの視点及びUD教育の視点】

- ・班ごとに野菜を育てることで、一人ひとりが役割をもって声を掛け合いながらみんなで「協働」できるように栽培活動をさせる。
 - ・成長の過程を見守る中でつぶやきや気付きを大切に交流し合い、人によって様々な見方や感じ方があることを知り、自分の考えを表現できる場づくりをする。
 - ・全ての児童に分かりやすい学習となるように教材や板書を工夫し、画像等で学習内容の視覚化を図る。
- 【道徳教育との関連】〔価値項目3—(2)〕
- ・身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。

(5) 題材の目標及び評価規準

○野菜の成長を楽しみにしながら栽培活動をし、種まきから収穫、調理まで継続的に関わろうとしている。
(関心・意欲・態度)

○自分で調べたり人に聞いたりしながら成長に合わせた世話の仕方を工夫し、野菜の成長や変化の様子を言葉や絵で自分なりに表現することができる。
(思考・表現)

○野菜は生命をもっていることやその特徴、成長や変化の様子に気付くとともに、世話をする自分のよさががんばりにも気づくことができる。
(気付き)

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
野菜の収穫を楽しみにしながら、植物の変化や成長の様子に関心をもって世話をしようとしている。	・植物の変化や成長のようすに合わせて世話のしかたを工夫している。 ・成長や変化の様子、育てる喜びを振り返るなどして、自分なりの方法で表現している。	・野菜の特徴、育つ場所、変化や成長のようす、野菜は生命をもっていることに気付いている。 ・1年生のときや夏野菜を育てたときよりも世話が上手になっていることに気付いている。

(6) 単元の指導計画及び評価規準(8時間取り扱い)

	主な学習内容	活動のねらい	関	思	気	評価規準及び方法	食育の視点
1	・夏野菜の栽培を振り返る。 ・育ててみたい冬野菜を調べ、決める。	・夏から冬へ、栽培の意欲をもたせる。 ・冬野菜を図鑑で調べ時期や栽培方法を考えながら選ぶ。	○		○	夏野菜栽培の経験から、栽培する時期や場所を考えて、育てたい野菜を選んでいる。 ※発言・シート	自分で育てた野菜も好き嫌いなく食べることに関心をもつ 【心身の健康】
2	・やさい名人から教えてもらい、種まきをする。	・やさい名人と交流しながら作業を行う。 ・丁寧な作業を意識する。	○		○	草取り、種まきを班で協力して行っている。 ※行動観察・つぶやき・感想カード	食料の生産は自然の恩恵の上に成り立っていることを知る。 【感謝の心】
3	・野菜の観察カードを書く。やさい名人にお世話の仕方を聞く。	・野菜の様子をくわしく観察し、絵と言葉で表す。 ・疑問などをやさい名人に聞き、解決していく。	○		○	野菜の成長の様子に気付き、よりよいお世話の仕方について名人に聞きながらできる。 ※発言・シート	野菜をおいしく食べるためにどんなお世話をすればいいのか考える。 【心身の健康】
4 (本時)	・冬野菜の特徴に気づく。 ・冬野菜の栄養、かぶの調理法について知る。	・夏野菜と冬野菜を比べることで、冬野菜の特徴に気づく。 ・栄養教諭から、詳しく話してもらうことで野菜とのかかわり方に広がりや深まりをもたせる。		○	○	・夏野菜と冬野菜の違い、冬野菜の特徴に気づく。 ・かぶについての知識が増し、今後の栽培活動の楽しみをもつ。 ※発言・ワークシート	夏野菜と冬野菜の違いを知り、季節の野菜に関心をもつ。 【食事の重要性】 残さず食べ、無駄なく調理することで感謝の気持ちを表すことを知る。 【感謝の心】
5	・野菜のお世話をし、観察カードを書く。 ・収穫後の調理方法について計画を立てる。	・間引きなど成長に合わせたお世話をする。 ・前時に学習したことをもとに自分達でできる調理方法を選ぶ。	○		○	・丁寧にお世話が出来る。 ・無駄なくおいしく食べるための方法を考える。 ※行動観察・つぶやきワークシート	食料生産にかかわる生産者の思い・苦労や努力を感じる。 【感謝の心】 収穫したものを無駄なくおいしく食べる方法を具体的に考える。 【食事の重要性】
6	・かぶ、サツマイモの収穫をする。	・友だちと喜びを分かち合いながらサツマイモの収穫ができる。	○		○	・喜びを感じながらサツマイモを収穫しようとしている。 ※行動観察・対話	食料の生産は自然の恩恵の上に成り立っていることを知る。 【感謝の心】
7 8	・収穫、調理をする。 ・GTに食べてもらい、感謝の気持ちを伝える。	・栄養教諭に手伝ってもらいながら計画に沿って楽しく協力しながら調理をする。 ・GTとともに収穫までの話や感想を交流し、おいしく食べてもらう喜びを知る。	○		○	・自分達が生産者の立場になり、調理したものを食べてもらうことで、感謝、喜びを感じ自分の成長に気づく。 ※発言・シート	食料生産にかかわる生産者の思い・苦労や努力を感じる。 【感謝の心】

7.本時の学習

(1) 目標

夏野菜と冬野菜を比べることを通して、冬野菜の特徴に気づくことができる。

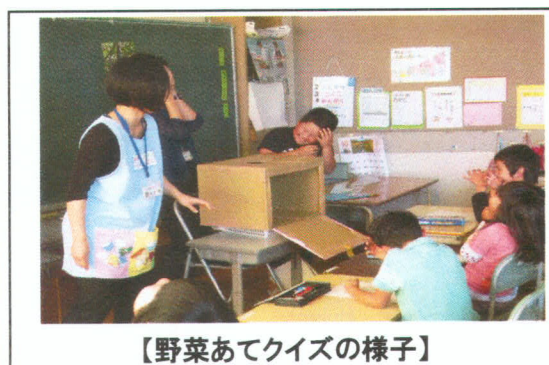
(2) 展開

過程	時間	学習活動 言語活動	主な発問・指示 (T) 児童の反応 (◇)	指導上の留意点及び評価	準備物
つかむ	5	1 野菜あてクイズをする。 2 本時のめあてを知る。	T 1 野菜あてクイズです。ヒントに、野菜の特徴を言います。本物を触ってみましょう。 T 1 野菜の特徴を見つけてヒントが出せました。冬の野菜の特徴をもっと見つけましょう。	・写真をもとにヒントを出させ、野菜の特徴を意識させる。 ・自分達が育てているかぶも冬野菜であることを確認する。	写真 野菜の実物 ワークシート
冬やさいのとくちようを見つげよう					
考える・深める	25	3 夏野菜と冬野菜を見て具体的に比べる。 (1) 写真と実物を見て、夏野菜と冬野菜に分けていく。 (2) 黒板の仲間分けを見て気付きを書き出す。【個人】 (3) 班で気付きを出し合い、発表する。 【班→全体】 (4) 冬野菜の特徴その①としてまとめる。 【言語活動のねらい】 3つの視点を元に話し合う活動を通して、冬野菜の特徴について理解を深める。	T 1 特徴を見つけるために、まず夏野菜と比べてみます。夏野菜と冬野菜を仲間分けしましょう。 T 1 写真を見て違いを見つけましょう。今日は本物も準備しました。 T 1 見つけたことを班で話し合い、みんなに教えて下さい。 ◇夏野菜はくきに育って、冬野菜は土の中で育つ。 ◇冬野菜は白や緑ばかりだ。 ◇夏野菜は実の中に種があるけど、冬野菜にはない。	・野菜が実っている様子、輪切りの写真を提示する。 ・実物を見て色や形、大きさなどを実感させる。 ・「色」「育つところ」「食べる部分」の3つを視点として示す。 ・3つの視点を明確にしたシートにまとめさせる。 A：夏野菜と違う点を挙げ、冬野菜の特徴に気づいている。 B：夏野菜との違いに気づいている。 B評価に達していない児童には、具体的な視点を与え、比べさせる。	野菜の写真 輪切りの写真 野菜の実物 班のシート フラッシュカード 料理の写真
	10	4 冬野菜の特徴その②として栄養面・食べ方を栄養教諭に教えてもらう。 (1) かぶの特徴や食べ方についての話を聞く。 (2) もっと知りたいことを質問する。 (3) 特徴②についてまとめをする。	T 1 冬野菜のパワーと、みんなが育てているかぶについて、野菜の食べ方名人、田代先生に教えてもらいましょう。 T 2 冬野菜のパワーを紹介します。 T 2 かぶを使った料理を紹介します。 T 1 食べ方名人のお話でわかったことをまとめましょう。	・栄養教諭に冬野菜の力、かぶの特徴、調理法を話してもらう。 ・収穫後は伝統食「菊花かぶ」を作って食べることを紹介し、栽培・収穫の意欲につなげる。 ・学級の実態、課題を踏まえながらまとめていく。	電子黒板 フラッシュカード
ふりかえる	5	5 本時のふりかえりをする。 (1) ワークシートに学習の振り返りを書く。 (2) 発表する。	T 1 今日は冬野菜についてたくさんのお話がありました。お家の人に教えてあげたい事はどんなことですか。 T 1 おいしく育てて食べるために、これからもお世話をがんばりましょう。	・本時のめあてができたことを評価し、家庭につなげる。 ・今後のかぶの成長、収穫に期待をもたせる。	

<授業の様子>

■「さ」段階 **さがす**

ブラックBOXで野菜あてクイズをした。解答者にヒントとして色や形、特徴を伝えることで既習事項を確認した。



【野菜あてクイズの様子】

■「し」段階 **調べる**

「そだつところ、色、食べるぶぶん」の3つの視点を与え、夏野菜と比較しながら冬野菜の特徴を調べた。



【視覚的に比較できる板書】

■「す」段階 **ステップアップ**

栄養教諭から、冬野菜の栄養、食べることの良さとかぶの調理法について話してもらった。

■「せ」・「そ」段階 **生活にせまる
育てる**

本時の学習を「お家の人に教えてあげたいこと」としてワークシートにまとめた。

それを見せて「お家の人より」の欄に書いてもらうことを伝え、生活につなげることを意識づけた。



【栄養教諭の話(ICT利用)】

食育の6つの目標に絡めて効果的だったことは、種まき、草取り、水やり等の世話をして野菜を育てることにより、かぶの成長に関心を持ち、食べ物にも命があることが観察を通して分かった。収穫、調理までを自分達で行うことで生産者や調理者に感謝の心を持つことができた。葉っぱまで食べられること、栄養や体にいいことを知り、自身の健康のために好き嫌いせず野菜を食べる意欲をもつことができた。

<成果 (○) 及び課題 (▲) >

- 野菜の実物をさわる、調べるなどして野菜に関心をもち、写真（全体像と食べる部分）により冬野菜と夏野菜の区別ができた。
- 給食で食べられるかぶ料理や栄養について栄養教諭に話を聞くことで育てているかぶの収穫・調理に期待が膨らみ、その後の栽培への意欲につながった。
- かぶのいいところを保護者に伝える目的でまとめたため、「～だからかぶ料理を作ってね。」と伝えようとする児童の姿が見られた。
- ▲冬野菜と夏野菜を比較する視点を示したが、特に「育つところ」で何を書けばいいか戸惑う児童もいたので、丁寧な説明が必要だった。
- ▲「お家の人へ」の欄に書いたまとめを、共有してさらに思考・表現を広めることができればよかった。

<ワークシート>

ぐんぐんのびろパート2～冬のやさいをそだてよう!～

2年 名前 ()



①夏やさいと冬やさいのちがいは何だろう？

②食べ方名人の話で分かったこと。

○今日の学しゅうをして、お家の人に教えてあげたいことを書きましょう。



お家の人より